

中学三年 国語 二学期期末予想問題

五十分・百点／大問七題・小問四十問

得点／百

小説の視点・象徴的表現、論説文の主張と論証の評価、情報の信頼性、和語・漢語・外来語、文法・敬語の総合復習、和歌と「おくのほそ道」。古典は語注を手がかりに読む問題です。

学校・教科書で教材と進度は異なります。学校の試験範囲を確かめて使いましょう。現代文は本教材のための創作文です。

問一～四は【】内の読みをひらがなで、送り仮名も含めて書きます。問五～八は【】内を漢字で書きます。各二点。

問一	計画の【妥当】性を検討する。	
問二	失敗しても【柔軟】に考える。	
問三	古い伝統を【継承】する。	
問四	自然への【畏敬】の念を抱く。	
問五	被害を受けた地域を【シエン】する。	
問六	相手の立場を【スイソク】する。	
問七	現場の安全を【カクホ】する。	
問八	旅行に必要な道具を【ジュンビ】する。	

記号は一つ選びます。記述では句読点・かぎカッコ・数字も一字に数えます。空いているマスは、すべて埋める必要はありません。記述は指定された字数の範囲で書きましょう。

[illegible][illegible]

ア
掛

イ
架

ウ
懸

工
賭

問十二（一点） 「言外」の意味として最も適切なものを選びなさい。

ア 外国で使われる言葉

イ 文章に書かれた全ての情報

ウ 相手に聞こえない小さな声

工 直接言葉には表されていないところ

三 文法と表現 問十八

問十八（二点） 「私は、昨日届いた荷物を開けた。」の「昨日届いた荷物」というまとまりで、「昨日」が直接修飾する文節を書きなさい。

[illegible]

四 小説を読む 本文

① 三年生の奈緒（なお）は、太鼓の音が一拍だけ遅れるたび、膝の上で指を止めた。町の秋祭りでは、中学生の太鼓が子ども行列を先導する。今年から中心になる二年生の奏（かなで）は、決まったところで必ず、ほんの少し間を空けた。奈緒たちは去年、先輩の録音を何度も聞いて、この曲を覚えた。自分が受け取った形のまま次へ渡す。それが、最後の役目だと思っていた。

② 「ここ、遅れるんだよね。」練習の後、奈緒は楽譜を指した。奏は楽譜を見つめたまま、「そうですか」と答えた。その顔を見て、奈緒は余計に心配になった。何を直せばいいかわからない顔だった。去年の録音を送れば分かるだろう。奈緒は携帯端末を取り出しかけたが、奏が「明日、通りでもやってみます」と言うので、画面を閉じた。

③ 翌日の夕方、二人は祭りの道を歩いた。奈緒には、細い角を曲がる順番も、店先の段差も見慣れたものだった。「去年は、ここで列をそろえたんだ。」説明しながら進む奈緒の後ろで、奏は時々立ち止まった。奈緒は返事を待たずに次の角へ進んだ。自分の足音だけが、少し先を歩いていた。

④ 広場では、小学生たちが行列の練習をしていた。奏が小さな練習用の太鼓を鳴らす。曲がり角で列の後ろの子が足を止めた。そのとき、あの間ができた。子どもが前の子に追いつくと、奏は次の音を置いた。奈緒は初めて、奏の顔が太鼓ではなく行列の後ろへ向いていることに気づいた。「今年、小さい子が多いんです。」奏は説明とも独り言ともつかない声で言った。

⑤ 奈緒は鞆の中の楽譜に触れた。去年も、行列が角で長く伸びたことはあった。そのとき自分は、前を歩く先輩の背中ばかり見ていた。奏の音が正しい、と簡単に言い換えれば済むわけでもない。間を空けすぎれば、前の列は進めなくなる。けれど、楽譜の上の線だけでは決められないことが、通りにはあった。奈緒は、いきなり楽譜を開くのをやめた。

⑥ 「どこを見て、次の音を出してる？」問いかけると、奏は少し驚いた顔をした。二人で行列の前と後ろを見ながら、もう一度歩いた。奈緒は去年の録音を消さず、鞆に端末をしまった。そして今度は、奏の少し後ろを歩いた。同じ曲なのに、知らない道が続いていた。

本文は本プリントのための創作文です。演奏の間とは、音と音のあいだの短い時間を指します。設問ページには必要な段落を再掲しています。

四 小説を読む 問十九～二十

① 三年生の奈緒（なお）は、太鼓の音が一拍だけ遅れるたび、膝の上で指を止めた。町の秋祭りでは、中学生の太鼓が子どもの行列を先導する。今年から中心になる二年生の奏（かなで）は、決まったところで必ず、ほんの少し間を空けた。奈緒たちは去年、先輩の録音を何度も聞いて、この曲を覚えた。自分が受け取った形のまま次へ渡す。それが、最後の役目だと思っていた。

② 「ここ、遅れるんだよね。」練習の後、奈緒は楽譜を指した。奏は楽譜を見つめたまま、「そうですか」と答えた。その顔を見て、奈緒は余計に心配になった。何を直せばいいかわからない顔だった。去年の録音を送れば分かるだろう。奈緒は携帯端末を取り出しかけたが、奏が「明日、通りでもやってみます」と言うので、画面を閉じた。

問十九（二点） ①で奈緒が音を気にしていた理由として最も適切なものを選びなさい。

- ア 練習場所が狭くなって演奏できないから
- イ 祭りへの出演が取り消されたから
- ウ 自分一人で全て演奏することになったから
- エ 受け継いだリズムを同じ形で次へ渡したかったから

問二十（二点） ②の「何を直せばいいかわからない顔」という表現の特徴を選びなさい。

- ア 奈緒の目に映った奏の様子を表している
- イ 奏の考えを語り手が全て説明している
- ウ 二人の過去の出来事を順序よく示している
- エ 奏が何も考えていないと断定している

全文は五ページ

四 小説を読む 問二十一～二十二

③ 翌日の夕方、二人は祭りの道を歩いた。奈緒には、細い角を曲がる順番も、店先の段差も見慣れたものだった。「去年は、ここで列をそろえたんだ。」説明しながら進む奈緒の後ろで、奏は時々立ち止まった。奈緒は返事を待たずに次の角へ進んだ。自分の足音だけが、少し先を歩いていた。

④ 広場では、小学生たちが行列の練習をしていた。奏が小さな練習用の太鼓を鳴らす。曲がり角で列の後ろの子が足を止めた。そのとき、あの間ができた。子どもが前の子に追いつくと、奏は次の音を置いた。奈緒は初めて、奏の顔が太鼓ではなく行列の後ろへ向いていることに気づいた。「今年、小さい子が多いんです。」奏は説明とも独り言ともつかない声で言った。

問二十一（三点） ③の「自分の足音だけが、少し先を歩いていた」には、どのような状況が表れているか。三十字以上四十五字以内で書きなさい。

問二十二（三点）
④の奏の行動が、それまでの奈緒の判断をどのように変えるきっかけになったかを選びなさい。

ア 奏が練習していないことを確信させた

イ 音の間が、行列の歩みに合わせた工夫だと気づかせた

ウ 奈緒自身が太鼓をやめる決心をさせた

工 去年の演奏の楽譜が間違っていたと証明した

[illegible]

全文は五ページ

問二十三（三点）
⑤で奈緒が「いきなり楽譜を開くのをやめた」のはなぜか。三十字以上四十五字以内で書きなさい。

[illegible]

問二十四（四点）⑥の「同じ曲なのに、知らない道が続いていた」の意味を、三十五字以上五十五字以内で説明しなさい。

[illegible]

問二十五（五点） 結末の奈緒は、過去の演奏を否定したのだといえるか。立場を明確にし、⑥の二つの行動を根拠に、四十五字以上六十五字以内で説明しなさい。

[illegible]

すたぺンドリル

五 説明文・論説文を読む 本文

① 「住みやすい町」や「使いやすい道具」の順位を目にすると、私たちは上位のものに目を向ける。順位は、複雑な違いを一行に並べ、短い時間で比べられるようにする便利な道具である。しかし、一位という表示は、その対象が、誰にとっても、どんな目的にとっても最もよいことを意味しているのだろうか。

② 順位を作る前には、何を比べるかが決められる。町なら、交通の利便さ、静かさ、買い物のしやすさなど、多くの観点が考えられる。そして、それぞれの観点をどの程度重視するかも決めなければならない。同じ資料を使っても、どの観点に大きな重みを置くかによって、総合的な評価は変わる。数字を計算する作業の前に、何を大切にするかという判断があるのである。

③ 例えば、A町は駅や店に近いが、通りの音がにぎやかで、B町は駅から遠いが、静かな場所が多いとする。移動の利便さを最も重視する人は、A町を高く評価するかもしれない。自宅で静かに過ごすことを最も重視する人なら、B町を選ぶだろう。これは、どちらかが計算を間違えたという話ではない。同じ二つの町でも、問い方が違えば、答えの順序は変わり得るということである。

④ だからといって、数字には意味がないと結論付けるのは早い。調べた時期や対象、比較した項目をそろえた数字は、違いを確かめるための手がかりになる。ただし、その数字が表している範囲を越えて判断してはいけない。交通だけの順位を、暮らしの全てについての順位と読み替えることはできない。数字の正確さと、それを使った判断の適切さは、分けて考える必要がある。

⑤ 順位を利用する側に必要なのは、順位を信じるか疑うかだけを決めることではない。どの項目で、いつ、どの対象を調べたかを確認し、【A】ことである。自分が重視する点が調査されていないければ、別の資料を探したり、実際に確かめたりする必要がある。順位は思考を終わらせる「答え」ではなく、よりよい問いを立てるための「入口」として使いたい。

A町・B町は、論理を説明するための架空の例です。実在するランキングや統計を引用したものではありません。設問ページには必要な段落を再掲しています。

五 説明文・論説文を読む 問二十六～二十七

① 「住みやすい町」や「使いやすい道具」の順位を目にすると、私たちは上位のものに目を向ける。順位は、複雑な違いを一系列に並べ、短い時間で比べられるようにする便利な道具である。しかし、一位という表示は、その対象が、誰にとっても、どんな目的にとっても最もよいことを意味しているのだろうか。

② 順位を作る前には、何を比べるかが決められる。町なら、交通の利便さ、静かさ、買物物のしやすさなど、多くの観点が考えられる。そして、それぞれの観点をどの程度重視するかも決めなければならない。同じ資料を使っても、どの観点に大きな重みを置くかによって、総合的な評価は変わる。数字を計算する作業の前に、何を大切にするかという判断があるのである。

問二十六(二点) ①の「便利な道具」が指すものを答えなさい。

[illegible]

問二十七(二点) ②で述べられている「順位を作る前」に行われることを選りなさい。

ア 順位を見た人の行動を全て予測すること

イ
どの観点でも同じ結果になることを確認すること

比較する観点と、それぞれを重視する程度を決めること

工 最下位になった対象を比較から外すこと

五 説明文・論説文を読む 問二十八～二十九

③ 例えば、A 町は駅や店に近いが、通りの音がにぎやかで、B 町は駅から遠いが、静かな場所が多いとする。移動の便利さを最も重視する人は、A 町を高く評価するかもしれない。自宅で静かに過ごすことを最も重視する人なら、B 町を選ぶだろう。これは、どちらかが計算を間違えたという話ではない。同じ二つの町でも、問い方が違えば、答えの順序は変わり得るということである。

④ だからといって、数字には意味がないと結論付けるのは早い。調べた時期や対象、比較した項目をそろえた数字は、違いを確かめるための手がかりになる。ただし、その数字が表している範囲を越えて判断してはいけな。交通だけの順位を、暮らしの全についてとの順位と読み替えることはできない。数字の正確さと、それを使った判断の適切さは、分けて考える必要がある。

問二十八（三点）
③でA町とB町の例を挙げた目的を、三十字以上四十五字以内で説明しなさい。

[illegible]

問二十九（三点）④の「数字には意味がない」という反論に対して、筆者はどう考えているか。最も適切なものを選びなさい。

ア 数字は一定の条件で比較するのに役立つが、判断の全てではない

イ 数字の順位は必ず誤っているので、使うべきではない

ウ 数字なら作り手の価値判断は一切入らない

工 条件を示さず順位だけが公平である

五 説明文・論説文を読む 問三十～三十二

② 順位を作る前には、何を比べるかが決められる。町なら、交通の利便さ、静かさ、買い物物のしやすさなど、多くの観点が考えられる。そして、それぞれの観点をどの程度重視するかも決めなければならない。同じ資料を使っても、どの観点に大きな重みを置くかによって、総合的な評価は変わる。数字を計算する作業の前に、何を大切にするかという判断があるのである。

⑤ 順位を利用する側に必要なのは、順位を信じるか疑うかだけを決めることではない。どの項目で、いつ、どの対象を調べたかを確認し、【A】ことである。自分が重視する点が調査されていなければ、別の資料を探したり、実際に確かめたりする必要がある。順位は思考を終わらせる「答え」ではなく、よりよい問いを立てるための「入口」として使いたい。

問三十(三点) ⑤の空欄Aに入る内容として最も適切なものを選びなさい。

ア 順位を決めた人の好みをそのまま自分の好みにする

イ 低い順位の対象を調べずに候補から除く

ウ 全ての数字を感覚的な印象に置き換える

工 自らの目的に照らし、足りない観点を補って判断する

問三十一（四点）
筆者が順位を「答え」ではなく「入口」と呼ぶ理由を、三十五字以上五十字以内で説明しなさい。

[illegible]

問三十二（五点） この文章の主張を確かめるために有効な調査を一つ提案し、理由とともに四十五字以上六十五字以内で書きなさい。

[illegible]

全文は九ページ

[illegible]

連絡方法	資料1 確認した人数	資料2 変更の時間
教室の紙の掲示	28人／30人	10分
電子連絡	24人／30人	1分

[illegible]

- 問三十九（二点） 資料を基にした結論として、最も適切なものを選びなさい。
- ア どの観点を重視するかによって、よいと考える方法は変わる
- イ 電子連絡だけで全員に必ず伝えられる
- ウ 紙の掲示は、どの観点でも電子連絡より劣る
- エ 速く更新できる方法なら、必ず多くの人が確認する